

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2017年5月10日

報告書名：平成29年度 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

平成29年度 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

2017年5月10日

事業名	ナンガハル州帰還難民越冬支援 Winterization Assistance for the Returnees in Nangahar		5 lines
事業対象地	アフガニスタン ナンガハル州		
事業期間	事業期間：2016年12月4日～2017年月2月4日		
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム		
総支出・返還金	総支出：28,216,690円（返還額：0円）		
プロジェクト目標および、その達成度	2016年12月末までに60万人の難民がアフガニスタンへ帰還した。アフガニスタン政府の方針により、帰還難民は農村部以外ではキャンプのような特定の場所に居住することが許されていないため、知人や親戚の家屋に居住している。最も多くの帰還難民を受け入れているナンガハル州は、12月下旬から2月上旬に最低気温が0度近くとなる寒冷期を迎えるため、帰還難民のための越冬支援が必要とされていた。本事業は、来る厳冬に対し、帰還難民およびホストファミリーの備えに寄与することを目的とした。 ナンガハル州の帰還難民および脆弱層を抱えるホストファミリー960世帯、約6,140名に越冬のための物資、食糧を配布した。		～10 line
実施内容 概要	物資配布 ナンガハル州 Behsood 郡に居住している、IOM から提供された非登録帰還民のリストの 1,800 世帯を調査し、900 世帯とホストファミリー60 世帯を選定し、計 960 世帯、約 6,140 名に 1 世帯あたり毛布 6 枚と食糧を配布した。	受益者数 約 6,140 人	2/3 page
成果	物資配布 <u>「約 6,140 名が越冬のために必要な食糧、毛布を有している。」</u> 計 960 世帯、約 6,140 名に 1 世帯あたり毛布 6 枚と食糧（米 24 キロ、小麦 48 キロ、砂糖 5 キロ、食用油 16 キロ、茶 1 キロ）を配布した。配布後 15 日後に実施されたインタビュー調査の結果は、配布食糧・毛布の量は、家族が冬を越すために十分であったと 93%が回答しており、本事業の有効性を示している。		～1page
課題と対応策	活動に関して、以下のような課題が見られた。 ・帰還民再定住キャンプの設立が認められておらず、帰還民は受入世帯の敷地に点在して居住しているため、OCHA が主導しクラスター参加団体に共有される世帯調査のデータ収集に多くの労力がかかった。		1/2

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2017年5月10日

報告書名：平成29年度 ジャパン・プラットフォーム 完了報告書

	<p>・配給場所を当会ジャララバード事務所にしたところ、群集が大勢集まり、騒然とした。</p>	
教訓・提言	<p>教訓として2点あげられる。第一に、帰還民再定住キャンプの設立が認められておらず、帰還民は受入世帯の敷地に点在して居住しているため、OCHAが主導しクラスター参加団体に共有される世帯調査のデータ収集に多くの労力がかかるため、フィールド・スタッフを当初の計画の3名から5名に増員し、借り上げ車両を当初予定の3台から5台に増やした。第二に、配給場所を当会ジャララバード事務所にしたところ、群集が大勢集まり、騒然としたため、警察による警護を要請した。当会事務所の1階では子どもの学校外教育活動を実施しているため、今後は物資や食料の倉庫および配給場所として外部の倉庫を借りるべきである。</p>	